

水道事務所公式
キャラクター「タンくん」

はむらの水

あなたは答えを知っている？

5つの謎

はむらの水の秘密、
タンくんに聞いてみよう



3 水を送る仕組みに 工夫があるってホント？



ところで、みんなの家に水を送るために、どのくらい電力が使われていると思う？

どのくらいと聞かれても…市内全部だと、たくさん使ってそうだしん。



エッヘン！実は配水に電力は使っていないんだ。配水塔に水をくみ上げるために使うだけなんだよ。



へえ、すごい省エネだしん！水道料金が安いって聞いたことがあるけど、もしかしてそのおかげ？



うん、電気代の節約も羽村市の水道料金が安い理由の一つ。それに万が一停電しても、配水塔に水があれば、配水を続けられるんだ。



水圧と高低差が大事 ■配水塔

浄水場でつくられた水道水は、市内2か所の配水場にある、高さ約10～30mの3つの配水塔に送られます。配水塔に水をためて、その水圧と高低差を利用して各家庭に水を送り届けています。配水の効率を考えて、市内でも標高が高い場所に配水塔を設置するという工夫もされています。

2 どうやって安全と おいしさをキープ？



高性能な ろ過施設と浄水場 ■膜ろ過施設

水源からくみ上げた地下水を、1,000分の2mmの穴が開いたスポンジ状の膜でろ過する施設。塩素消毒に強い病原性原虫（クリプトスポリジウム）も完全に除去することができます。

▲膜ろ過ユニット

▲膜ろ過施設

「水はむら」
はここから
別ルート



工場で加熱殺菌



ペットボトルに
つめて「水はむら」
のでき上がり！



水をろ過するための装置。この中を通って水がろ過される。上写真の膜ろ過ユニットの中にこれが5,040本も入っている



羽村市はコンパクトなまちだから、水道管に水が滞留している時間が短く、余分な消毒をしなくて済むんだ。これもおいしさの秘訣！

1 はむらの水は どこから来るの？



自然ろ過された きれいな地下水 ■第1～第3水源

豊富な地下水を3つの井戸（水源）からくみ上げています。もともと、自然ろ過されたきれいな水です。上の写真は羽村市の上水道事業の最初の水源として昭和36年～42年に活躍した第1号の井戸。

▲当時の姿を水道事務所敷地内に残している



▲第1水源



▲第1水源から地下水をくみ上げている装置（ポンプ）

玉川上水の水を飲んでいないの？驚いたりん！



そうなんだ。ところで、羽村市民が1日に使う水の量は約18,000m³。小学校のプールだと何杯になると思う？

…5杯くらい？



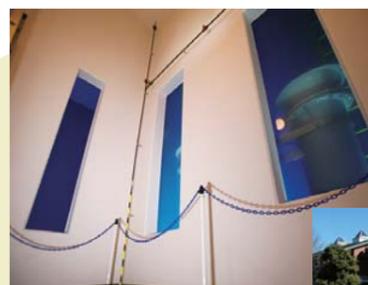
実は、50杯にもなるんだよ。それを全部3つの井戸からくみ上げているんだ。

そして皆さんの家や職場へ…

ROAST HOUSE 豆香
藤巻小百合さん



羽村の水は軟水で珈琲に合うし、やさしい感じがします。冬はなんとなく温かく、夏は冷たい。お客さんに、珈琲より先に水がおいしいと褒められることもあります。おいしいと言われるほかの水より羽村の水で入れた珈琲の方がおいしかった時には驚きましたね。



▲浄水池の中が見える小部屋がある

■浄水場

ろ過した水を消毒する施設。容量は約1,840m³。1日あたり27,500m³の水道水を配水塔に送ることができます。



▲浄水場で水質の安全を確認するために、水槽で魚を飼っている

では、使った後の水はどこへ…？